

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：37105

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00870

研究課題名（和文）熟達英語教員が見出す中高と大学の英語教育の実践知の共通性と差異性

研究課題名（英文）Similarities and differences in English Teaching between high schools and universities, discovered by a proficient English teacher

研究代表者

横溝 紳一郎（YOKOMIZO, SHINICHIRO）

西南学院大学・外国語学部・教授

研究者番号：60220563

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000円

研究成果の概要（和文）：英語教育に対する社会的要請が高まる一方、大学生の学習意欲や自尊心、学力や一般的コミュニケーション能力が低下している現状で、大学での英語教育の実践者はこれまで以上に実践知を身につけることが必要になっている。

このような背景において、中学校や高校で優れた教育実績を上げ、現在大学で英語教育を行っている熟達英語教師（以下、中高大熟達教師）は、自らの経験を通じて中高と大学の英語教育の共通性と差異性を体得している。本科研は、その実践知を実践観察と再生刺激法を含む聞き取り調査により言語化・可視化した上で理論的に分析して、大学英語教育実践者への実際の示唆を与えるものである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

5年間の研究の結果、中学校での優れた教育実践を経て大学で英語を教えるようになった熟達教師Aは、大学での英語の授業を通じて、「人を育てる英語教育」を実践していることが明らかになった。熟達教師Aの英語教育実践と教育理念は、「a.個人としての自己肯定感を育てること」「b.社会的スキルを育てること」「c.教室の外で生きる力を育てること」の3つの目的に集約される。これらの目的は、スキルのみの上をめざす英語の授業とは大きく異なっており、教科を超えて大きな教育的示唆を与えうるものである。

研究成果の概要（英文）： While social demands in English education increase, the motivation, self-esteem, academic ability and communication skill of university students appear to be declining.

Under this circumstance, teachers are in need to acquire practical knowledge in English language education.

Through his experience in teaching at high school and university level, a particular proficient English teacher discovers the similarities and differences in English teaching between the two academic levels. This study attempts to clarify his practical knowledge by observing his classes and by interviewing him, and to contribute to practical suggestions of teaching English at the university level.

研究分野：教師教育

キーワード：大学英語教育の目的 人を育てる 熟達教師

1. 研究開始当初の背景

英語教育に対する社会的要請が高まる一方、大学生の学習意欲や自尊心、学力や一般的コミュニケーション能力が低下している現状で、大学での英語教育の実践者はこれまで以上に実践知を身につけることが必要になっている。実際、一部の大学では高等教育にふさわしい(英語)教育が実施できないことも報告されている。このような中、大学英語教員も、中高の英語教育の実践知に学ぶ一方、高等教育機関の教員として保たねばならない実践知を見極め開発し、高大接続を成功させる必要がある。

このような背景において、中学校や高校で優れた教育実績を上げ、現在大学で英語教育を行っている熟達英語教師(以下、中高大熟達教師)は、自らの経験を通じて中高と大学の英語教育の共通性と差異性を体得している。本科研は、その実践知を実践観察と再生刺激法を含む聞き取り調査により言語化・可視化した上で理論的に分析して、大学英語教育実践者への実際の示唆を与えるものである。

2. 研究の目的

上掲の背景の下、本研究は以下の目標を設定するに至った。

第一目標：中高と大学の英語教育の実践知の共通性を解明し、大学英語教員に中高英語教育の実践知の重要性を具体的に示し、中高と大学の英語教員間の実践研究的交流と円滑な高大接続を促進する。

第二目標：中高と大学の英語教育の実践知の差異性を解明し、大学英語教育実践の独自性を解明して、大学生としてふさわしい知的・社会的成熟をもたらす英語教育の実践知を解明する。

3. 研究の方法

実践観察と再生刺激法を含む聞き取り調査を通じての中高大熟達英語教師と理論的分析者との対話による質的研究。実践観察では授業を複数のビデオで撮影する一方、フィールドノートを作成する。聞き取り調査では、ビデオを再生してその画像を刺激とすることによってその時々の実践的判断を尋ね、フィールドノートに記された疑問点や論点を基に対話的に(すなわち対等な関係で、自らの思い込み(assumption)に固執することなく)実践知の解明を目指すこととした。コロナ禍の影響で、実践観察が困難になった後は、聞き取り調査をオンライン上で行い、その記録を残すことになった。



4. 研究成果

5年間の研究プロセスを、時系列に沿って以下に記す。

令和元年度

- (1) 4月～5月 中高大連携の英語教育についての文献収集、並びに実践観察と聞き取り調査のスケジュール調整
- (2) 6月14日 研究分担者 A からのデータ収集（実践観察と聞き取り調査による：横浜にて）
- (3) 6月24日 研究分担者 B からのデータ収集（実践観察と聞き取り調査による：大阪にて）
- (4) 7月23日 研究分担者 B からのデータ収集（実践観察と聞き取り調査による）及び研究代表者 / 研究分担者 3 名のミーティング（大阪にて）
- (5) 8月～12月 研究代表者と研究分担者 C による、収集データの分析
- (6) 1月初旬～3月下旬 研究代表者と研究分担者 C によるデータ分析結果を研究分担者 A・B に提示し、ミーティング（オンライン会議）

令和二年度

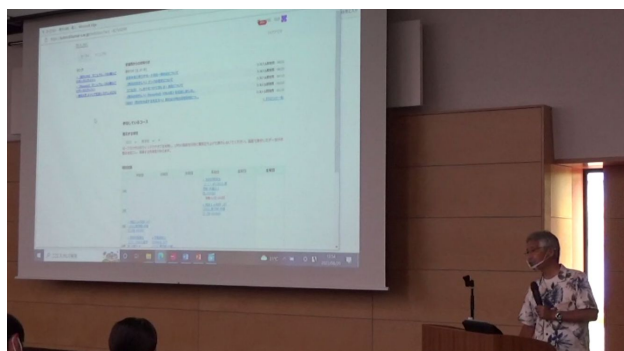
- (1) 4月～8月 中高大連携の英語教育についての文献収集
- (2) 9月17日 研究代表者 / 研究分担者 3 名のオンライン会議
- (3) 9月～3月 研究代表者と研究分担者 C による、令和元年に収集したデータの分析
- (4) 1月20日 研究代表者と研究分担者 C のオンライン会議
- (5) 1月28日 研究代表者 / 研究分担者 3 名のオンライン会議
- (6) 3月20日 研究分担者 B からのデータ収集（聞き取り調査：福岡にて）。

令和三年度

- (1) 4月～8月 中高大連携の英語教育についての文献収集
- (2) 4月～7月 研究代表者による大学英語教育実践でのアクション・リサーチの実施
- (3) 8月18日 研究代表者 / 研究分担者 C のオンライン会議
- (4) 9月6日 研究代表者 / 研究分担者 3 名のオンライン会議
- (5) 9月～3月 研究代表者と研究分担者 C による、令和元年～2年に収集したデータの分析
- (6) 9月～1月 研究代表者による大学英語教育実践でのアクション・リサーチの実施
- (7) 3月7日 研究代表者と研究分担者 3 名のオンライン会議
- (8) 3月25日 研究代表者と研究分担者 3 名のオンライン会議
- (9) 3月30日 研究代表者と研究分担者 2 名のオンライン会議。

令和四年度

- (1) 4月～7月 研究代表者による大学英語教育実践でのアクション・リサーチの実施
- (2) 4月18日・4月25日・5月10日・5月19日・5月24日・5月31日・6月9日 研究代表者 / 研究分担者 3 名のオンライン会議
- (3) 8月20日 公開シンポジウム「人を育てる英語教育」の開催（於西南学院大学、対面形式の開催、約100名の参加者）



- (4) 9月～3月 研究代表者と研究分担者 C による、令和元年～4年に収集したデータの分析

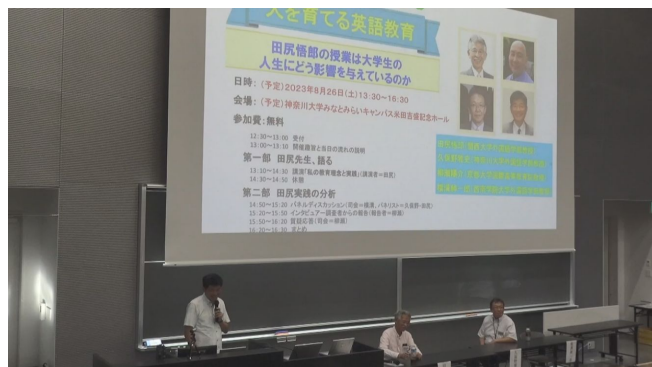
(5) 9月8日・2月8日 研究代表者と研究分担者3名のオンライン会議。

令和五年度

(1) 4月～7月 研究代表者による大学英語教育実践でのアクション・リサーチの実施

(2) 4月16日・5月23日・6月13日・7月18日・8月18日 研究代表者/研究分担者3名のオンライン会議

(3) 8月26日 公開シンポジウム「人を育てる英語教育」の開催(於神奈川大学、対面形式の開催、約100名の参加者)



(4) 10月17日・11月14日・12月12日・2月13日・3月19日 研究代表者/研究分担者3名のオンライン会議

(5) 3月23日 公開シンポジウム「人を育てる英語教育」の開催(於TKP大阪本町カンファレンスセンター、対面形式の開催、約80名の参加者)



研究成果と今後の展望

本研究の当初の目的は、「中学校や高等学校での優れた教育実践を経て大学で英語を教えるようになった熟達教師が、両教育課程での英語教育の実践知にどのような共通性と差異性を見出しているのか」を明らかにすることであった。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響で、(a) 研究分担者A・Bによる英語教育実践の多くがオンライン授業になり、その結果、大学生とのやり取りも非常に限定したものとなってしまったこと、そして(b) 実践観察と再生刺激法を含む聞き取り調査や、研究メンバーが全員集い共通性と差異性についてまとめることが困難であったことなどが原因で、調査対象の熟達教師を研究分担者Aに限定し、研究代表者と研究分担者BとCが共同分析を行うという形式へと変更した。

令和4年度に研究期間を1年延長し、研究代表者/研究分担者3名のオンライン会議を重ね、令和4年8月20日に公開シンポジウム「人を育てる英語教育」(於西南学院大学)を対面形式で開催し、それまでの研究成果を公開した。その後、それまでの調査をさらに拡大・深化させるために、研究期間の1年延長(再延長)をし、研究代表者/研究分担者3名のオンライン会議をさらに重ね、その成果を、令和5年8月26日

のシンポジウム（於神奈川大学）および令和6年3月23日のシンポジウム（於TKP大阪本町カンファレンスセンター）で公開した。

5年間の研究の結果、「研究分担者Aによる英語教育実践と教育理念は、『a.個人としての自己肯定感を育てること』『b.社会的スキルを育てること』『c.教室の外で生きる力を育てること』の3つの目的に集約される」ことが明らかになった。

本研究の成果を書籍の出版（仮題『人を育てる外国語教育』）へとつなげるために、研究代表者と研究分担者A・B・Cが、それぞれの担当部分を執筆中である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

- (1) 横溝紳一郎 (2020) 「『ことば』の教師に必要なコミュニケーション能力とは何か」『日本語学』夏号、pp.132-142.
- (2) 横溝紳一郎 (2021) 「外国語教育におけるソーシャルネットワーキングアプローチ」『西南女学院大学紀要』Vol.24、pp.75-84.
- (3) 横溝紳一郎 (2022) 「持続可能な教師の成長」*Journal CAJLE* Vol.23、pp. 1-16.
- (4) 横溝紳一郎 (2022) 「Community Language Learning の理論に基づく教室活動」『西南学院大学外国語学論集』3/1、pp.93-110.

〔学会発表〕(計6件)

- (1) 横溝紳一郎 「授業改善の視点と方法 - 教師としての成長をめざして -」名古屋外国語大学留学生別科 (国際日本語教育インスティテュート・IJLE)開設20周年記念行事オンライン連続講演会 (2021年6月、オンライン開催)
- (2) 横溝紳一郎 「授業改善の視点と方法」CAJLE (Canadian Association for Japanese Language Education: カナダ日本語教育振興会) 2021年次大会 (2021年8月、オンライン開催)
- (3) 横溝紳一郎 「(学習者のために) 教師ができること / すべきこと / やってはいけないこと」ハノイ日本語教育研究会第6回講演会 (2022年2月、オンライン開催)
- (4) 横溝紳一郎 「やってみよう、授業改善！」第26回CJCC日本語教師研修会 (2023年3月23日、ブノンペン)
- (5) 横溝紳一郎 「日本語教師のためのアクティブ・ラーニング」EALL Talk (2024年3月、ホノルル)
- (6) 横溝紳一郎 「やってみよう、授業改善! - 持続可能な教師の成長をめざして -」タイ日本語教育研究会第36回年次セミナー (2024年3月23日、バンコク)

〔図書〕(計3件)

- (1) 横溝紳一郎・山田智久 (2019) 『日本語教師のためのアクティブ・ラーニング』くろしお出版
- (2) 横溝紳一郎 (2021) 『日本語教師教育学』くろしお出版
- (3) 村田和代・松下達彦・池田麻衣子・秦かおり・嶋津百代・スミス大学・熊谷由理、吉田悦子・中村香苗・塗銘宏・チャプル=ジュリアン・横溝紳一郎・柳瀬陽介・岡本能里子 (2022) 「大学における一般教養の英語授業がめざすべきものは何か？」村田和代編『レジリエンスから考えるこれからのコミュニケーション教育』ひつじ書房、pp.63-78.

〔産業財産権〕・出願状況 (計0件)・取得状況 (計0件)

〔その他〕ホームページ等：なし

6. 研究組織

- (1) 研究分担者：田尻悟郎・久保野雅史・柳瀬陽介
- (2) 研究協力者：なし

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 横溝紳一郎	4. 巻 3/1
2. 論文標題 Community Language Learning の理論に基づく教室活動	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 西南学院大学外国語学論集	6. 最初と最後の頁 93-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横溝紳一郎	4. 巻 23
2. 論文標題 持続可能な教師の成長	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal CAJLE	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横溝紳一郎	4. 巻 Vol. 25
2. 論文標題 外国語教育におけるソーシャル・ネットワーキング・アプローチ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 西南女学院大学紀要	6. 最初と最後の頁 75-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横溝紳一郎	4. 巻 Vol. 72-2
2. 論文標題 日本語教育と英語教育	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 英語教育	6. 最初と最後の頁 6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横溝紳一郎	4. 巻 第39巻第2号
2. 論文標題 「ことば」の教師に必要なコミュニケーション能力とは何か	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本語学	6. 最初と最後の頁 132-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計3件

1. 著者名 村田和代、松下達彦、池田麻衣子、秦かおり、嶋津百代、スミス大学、熊谷由理、吉田悦子、中村香苗、徐銘宏、チャプルジュリアン、横溝紳一郎、柳瀬陽介、岡本能里子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 208
3. 書名 レジリエンスから考えるこれからのコミュニケーション教育	

1. 著者名 横溝紳一郎	4. 発行年 2021年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 224
3. 書名 日本語教師教育学	

1. 著者名 横溝 紳一郎、山田智久	4. 発行年 2019年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 312
3. 書名 日本語教師のためのアクティブ・ラーニング	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	田尻 悟郎 (Tajiri Goro) (30454599)	関西大学・外国語学部・教授 (34416)	
研究分担者	久保野 雅史 (Kubono Masashi) (50251070)	神奈川大学・外国語学部・教授 (32702)	
研究分担者	柳瀬 陽介 (Yanase Yosuke) (70239820)	京都大学・国際高等教育院・教授 (14301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関